

山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4_地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策2_水田農業の収益性の向上						
	目的	「つや姫」をはじめとした本県品種の「売れる米づくり」の取組みや生産基盤の強化を図り、収益性の高い水田農業を実現する。						
	目標指標(R2)	米による産出額	930億円					
	策定時の実績	—	現状	668億円(H26)	主要事業	県産米の付加価値向上と水田フル活用事業の推進		
事業名	山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化推進事業費		担当課・担当	県産米ブランド推進課 県産米販売戦略担当、雪若丸ブランド戦略推進担当、生産戦略担当				
事業開始年度	平成30年度		事業終了(予定)年度	令和2年度				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	日本を代表するブランド米として「つや姫」の評価を確立し、全国に定着させること、また、「つや姫」と新品种「雪若丸」のブランド力向上を目指し、第4次つや姫ブランド化推進戦略及び「雪若丸」ブランド化戦略に基づき、各種事業を計画的かつ効果的に展開する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」のブランド化戦略(生産・販売・コミュニケーション)の推進 ・「雪若丸」の栽培技術の向上・普及及びブランド化戦略(生産・販売・コミュニケーション)の推進 ・PRスタッフによる県産米の販売・PR支援 ・「雪若丸」の品質維持に向けた食味検査体制の整備 							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:①補助:JAや生産法人等が整備する食味検査器への支援を行うため ②負担:関係団体が事業費を負担して実施することにより、活動範囲が拡大するため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	「つや姫」「雪若丸」ブランド化推進事業	73,706	148,616					
	県産米販売・PR支援事業	13,384	13,384					
	「雪若丸」生産振興対策	2,608	1,603					
	「雪若丸」栽培技術確立研究事業	3,068	2,858					
	「雪若丸」食味検査体制の整備	10,000	5,000					
	計	102,766	171,461	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	51,056	85,551					
	繰入金							
	その他特定財源	167	141					
	一般財源	51,543	85,769					
	計	102,766	171,461	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	生産技術の向上に向けた現地研修会の開催	活動実績	回	6	6			
		当初見込み			6	6	6	6
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	「つや姫」の価格ポジション (生産技術の向上により高品質・良食味米が生産され、付加価値が高まる)	成果実績	%	100%	100%			
		目標値		魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ	
		達成度	%	100%	100%			
関連事業	やまがた攻めの米づくり日本一運動事業費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

平成22年にデビューした「つや姫」は、日本一のブランド米を目指し、高品質・良食味米の生産に取り組んできた。平成30年秋に本格デビューした「雪若丸」は、栽培技術の向上に取り組んでおり、特長である【新食感】が幅広い年代に受け入れられ、消費者アンケートでは9割超が「おいしい」と回答するなど高い評価を得ている。

一方で、全国からブランド米を目指す米が登場し、産地間競争が激化していることから、「雪若丸」の更なる認知度向上と販売拡大並びに「つや姫」の価格ポジションの維持に向けて、栽培技術研修会等により生産者の技術を高め、付加価値の高い高品質・良食味米の生産に取り組んでいく。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地からブランド米を目指す新品種が登場し、ブランド米競争が激化している中で、全国トップブランド米「つや姫」と昨年デビューした「雪若丸」のブランド評価を確立することは、農業所得の向上につながるものであり、生産者等のニーズを反映している。 ・ブランドの根幹をなす高品質・良食味米の安定生産に向けた生産技術向上の取組みにより、高価格帯を維持していることから、設定は妥当である。 ・食味分析計の導入により、良食味の米だけを選別することができ、良食味米の出荷が促進されるものと期待される。 ・平成30年度内に全て整備され、平成30年産米の収穫の時期に活用された。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・活動は計画に沿って実施している。 ・補助金の交付先は、認定生産団体となっている。 ・費目・使途は必要なものに限定し実施している。 ・事業実施にあたっては効果的な手段・方法等を検討し、低コストに努めた。 ・当該事業は「つや姫」「雪若丸」を対象に実施しているが、「やまがた攻めの米づくり日本一運動事業費」は県産米全体を対象としており、対象を整理している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	「つや姫」「雪若丸」は県が事務局となる山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部が、生産者又は生産組織を認定しており、山形県のブランド米としての評価を獲得していくためには、県が主体的に実施する必要がある。
今後の改善の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年産は「つや姫」「雪若丸」ともに、収量がマニュアルレベルに届かなかったことから、引き続き、高品質・良食味安定生産の徹底が必要。 ・技術対策を強化するとともに生産組織と連携した産地の育成に努め、販売形態に応じた需要拡大を図っていく。 		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない